２・３面　特集記事
健やかな子どもを育てる力をつけて
一歩先の未来へ
３面コラム　ここに母校あり～未来へはばたけ～
横浜市立東俣野特別支援学校

第161号
PTAよこはま

発行日／平成30年2月1日　発行者／横浜市ＰＴＡ連絡協議会　横浜市中区港町1-1 横浜市教育委員会内 TEL662-7080 FAX662-6084　編集／平成29年度 常置広報委員会

「いちばんじゃなくて いいんだね」
元五輪ランナー・松野明美さん講演
横浜市ＰＴＡ連絡協議会研修会

10月17日、やや寒い秋雨の中、関内ホール大ホールにおいて、元オリンピックランナーの松野明美さんをお迎えし、ご講演いただきました。

会場には横浜市内から５００人ほどのＰＴＡ会員が集まり、約１時間30分にわたって、松野さんのマラソンランナー人生の始まりからトップランナーまで上り詰める努力、苦悩、喜び、そしてその後の引退、結婚、出産、子育てを通して新たに気付いた人生の喜び、感謝の気持ちなどのお話を飽きることなく聴講しました。

780円のスニーカー

情熱的でユーモアたっぷりの松野さんのお話で会場内は笑い声であふれ、同世代の子どもを持つ親同士の共感、絆を感じる素晴らしい講演会でした。

町内のマラソン大会で「７８０円の少し大きめサイズのスニーカー」を履いて見事１位になったことで始まった松野さんのマラソン人生。「体が小さく、おとなしい自分が人生で初めて１位を取った時の感動」ではなく「仕事で忙しい中、応援に駆けつけてくれた両親が、１位を取った自分に向けた満面の笑顔」。これこそが松野さんをトップアスリートにする最大のエネルギーでした。

特別の明るさで困難を乗り越えた経験を語る松野明美さん＝関内ホール

社会人陸上部に入部後も日本のトップを目指し、朝練前の走り込みで人の２倍の練習をし、それでもダメなら通勤をトレーニングとして往復14kmの道のりを走り、それでも納得がいかないと休みの日はほぼフルマラソンの40kmを走るなど、人の３倍、４倍と練習に練習を重ねる松野さん。ついには体重は32kgまで落ち、体脂肪は男性アスリート並みの７％まで絞り込みました。

オリンピック出場などアスリートとして絶頂期を迎えるころには、体に変調をきたしても「ここまで練習が出来た！うれしい」と安どするような生活だったそうです。

次男のダウン症

そんな松野さんも１９９５年に現役を引退。２００１年に結婚され長男、次男に恵まれますが、次男のダウン症と心臓病が発覚し、持ち前の明るさからは想像ができないほど落ち込みもがき苦しみ続けたそうです。

松野さんが最初に出した答えは「この子を表に出してはいけない、一生隠し通さなくては」でした。この決断だけを聞くと「なんて事を考えるんだ」と思う方もいるかも知れませんが、世間から「明るい」「楽しい」「元気」のイメージでタレント活動をしている松野さんにとっては大きな問題。それだけではなく「〝松野明美〟の息子」として次男も好奇の目にさらされてしまうかもしれない恐怖とも闘っておられたと思います。

地元熊本で病院以外は外に出歩かない生活を続ける中、次男は２歳半で心臓の大手術を受け無事に成功。他の子と比べるとゆっくりの成長ですが、その分、３歳半で歩き始め４歳半の時に初めて松野さんと一緒にお散歩をしたときの喜びはひとしおでした。

温かさに救われ

この頃から松野さんは周囲の方たちの温かい言葉、ご主人の優しさを受け入れることができて「一番の松野明美でなくてもいいんだ」と素直に思えるようになったそうです。

ダウン症の次男も保育園に通ううちに自然とストローが使えるようになったり、10年かかると覚悟したオムツ外しもすんなりと完了したり。一番であり続けることにこだわらず肩の力を抜いたとたんに、見える世界が変わり生活も穏やかになったそうです。

「母親が元気で明るく生活していることが子どもにとって一番」と話す松野さんに、次男がダウン症と分かった時、「この子が松野さんを選んで産まれてきたのよ」と言う周囲の声に「私じゃなくて他の人を選んでくれれば良かったのに」と本気で泣いた姿はもうありません。

「私がこの子を選んだ」「この子がいなかったらいつまでも一番でなければいけない〝マラソンランナー松野明美〟のままだった」胸を張って誇らしくそうおっしゃる松野さん。子育てに一番大切なことを改めて考え、この先の親子の絆を深める第一歩となるのだと感じられた素晴らしい講演会でした。

平成29年度　全国小・中学校PTA広報紙コンクール
～　広報紙づくりの“秘訣”を直撃インタビュー　～
学校と家庭をつなぐ役割と、読者の視点を意識して

佳作受賞
横浜市立 **山田小学校PTA**（都筑区）

■なぜ、9年間も続けて受賞できているのですか？

毎号変化があったことをとらえ、**「これって本当のところどうなの？」**や**「学校ってこんなねらいでこんなことをやっているんだ」**という自分たちが知らないことを取材し、広報紙を通して保護者に伝えることを意識しています。表紙の**写真は、待ってねらって**いい表情のインパクトがある１枚を選ぶようにしています。

３つの愛＝**子どもへの愛**（子どもと関わりたい気持ち）、**物づくりの愛**（こだわり）、そして**仲間同士の愛**（いろんな意見を尊重しあい、苦労を共有）と、先輩方からの**技（ノウハウ）の伝承・継承がベース**にあるからこそか。

▼アイデア満載のこだわりの紙面

佳作受賞
横浜市立 **西谷中学校PTA**（保土ケ谷区）

■大胆な表紙、中面もとても見やすく、洗練されたセンスを感じます。

自分のできること、特技を活かし、みんなの力を集結して作り上げています。“興味深い話題はないか？”と常にアンテナを張り、特集記事のテーマ探しを心がけています。

記事内容が決まったら、今年度はプロの技やセンスを最大限に活かし、**記事については読みやすいように余白を活かしたシンプルなデザイン構成に**、また**行事については写真を多数掲載**する形にしました。

「常に読者の立場で！」を合言葉に、毎月開催する編集会議は、委員長を中心に、意見や思いを伝え合う熱い議論の場にしています。

◀余白で引き立つ紙面

伝えたいことをシンプルに

・・・・・・・・・・・＊・・・＊・・・＊・・・＊・・・＊・・・・・・・・・・・

取材を通して、皆さんの広報紙に対する熱い思いが強く伝わってきました。それと同時に「なるほど～」と思えることが多数あり納得しました。

テーマの探し方、活動への心構え、メンバーが入れ替わっても**受け継がれているノウハウ**や、プロがいる年にはその**技を活かしたもの**を作るなど、魅力的な広報紙にはそれなりの秘訣（ひけつ）がありました。広報紙づくりだけでなく、ＰＴＡ活動で、仕事で、家庭で、いろんな場面で活かせるヒントがたくさんありました。

平成29年度
優良PTAほか受賞校・受賞者

文部科学大臣表彰

横浜市立大口台小学校ＰＴＡ	神奈川区
横浜市立茅ケ崎台小学校ＰＴＡ	都筑区

神奈川県教育委員会表彰

横浜市立白幡小学校ＰＴＡ	神奈川区
横浜市立南神大寺小学校ＰＴＡ	神奈川区
横浜市立浅間台小学校ＰＴＡ	西区
横浜市立瀬ケ崎小学校ＰＴＡ	金沢区
横浜市立高田中学校ＰＴＡ	港北区
横浜市立上山小学校ＰＴＡ	緑区
横浜市立嶮山小学校ＰＴＡ	青葉区
横浜市立笠間小学校ＰＴＡ	栄区
横浜市立上飯田小学校Ｐ.Ｔ.Ａ.	泉区
横浜市立上菅田特別支援学校ＰＴＡ	特別支援部会

日本ＰＴＡ全国協議会会長賞

【団体表彰】

横浜市立浅間台小学校ＰＴＡ	西区
横浜市立高田中学校ＰＴＡ	港北区
横浜市立嶮山小学校ＰＴＡ	青葉区

【個人表彰】

海上　良太	市Ｐ連会長	南区
奈良輪　孝雄	市Ｐ連前副会長・菅田小学校長	神奈川区
土志田　浩	市Ｐ連前副会長	港北区
鈴木　信裕	市Ｐ連前会計	緑区

Ｈ29　ＪＹＯＵＣＨＩ　ＫＯＵＨＯＵ　Ｍａｓａｋｏ／Ｙｏｋｏ／Ｍｕｔｓｕｍｉ／Ｍｉｔｓｕｅ／Ｃｈｉｅ／Ｙａｓｕｙｏ／Ｙｕｋｏ.Ａ／Ｙａｓｕｋｉ／Ｔｏｍｏｍｉ／Ｃｈｉｚｕｋｏ／Ｙｕｋｏ.Ｓ／Ｍａｋｉ／Ｙａｓｕｏ／Ａｓａｍｉ／Ｙｕｒｉ／Ｓａｃｈｉｙｏ／Ｒｙｏｋｏ／Ｅｒｉｋｏ

ここに母校あり～未来へはばたけ～

横浜市立 東俣野特別支援学校

戸塚区の緑豊かで閑静な場所、そして学校からは富士山を眺めることができる「東俣野特別支援学校」に訪問し、お話を伺いました。

全生徒数は45名で小学部、中学部、高等部があり、特に障がいの重い子どもたちが通う学校です。同一敷地内には「東俣野小学校」があり、校舎がつながっているため、子どもたちが校舎内を行き来することができるようになっています。ペアクラスを組んだり、一緒に運動会に参加したりと、子どもたちの交流の場も多く、自然にお互いを思いやる気持ちが生まれているそうです。同校の学校教育目標は、【えがおいっぱい　ふれあいいっぱい　あたたかさいっぱい】です。実際に訪問しお話を伺ったことにより、いろいろな側面からの理解を深めることができました。

同校は一昨年創立30周年を迎え、ＰＴＡが作成した『東俣野特別支援学校の子どもたち』という冊子があります。子どもたちのこと、取り巻くさまざまな環境について、そして保護者の方たちの熱い思いが詰まった手記などが掲載されています。

ＰＴＡが５年前に発案したＩＤＤブックは、現在もコミュニケーション支援の重要なツールになっています。この本は、いつでも［Ｉ］、どこでも［Ｄ］、誰にでも［Ｄ］をコンセプトに、一人ひとりのメッセージを具現化しています。障がいの重い子どもたちにとって、発している「サイン」（＝自分の思い）を周囲の人たちに届けるのは難しいことです。保護者や担任の先生などの限られた方にしか知られていない「サイン」を、ＩＤＤブックで周囲の人たちとも共有することにより、現在の生活を豊かにすることができ、また卒業後にも活かされています。「サイン」以外にも自己紹介文や必要なケアなどが詳細にまとめられており、現在は平戸地域ケアプラザとも連携して、近隣の学校との交流にも有効活用されています。

学校行事の遠足などは、環境が整備されている施設に限定されてしまいます。まだまだ肢体不自由者が利用しやすい施設が少ないのが現状です。３年後には東京オリンピックおよびパラリンピックが開催されますので、介助をしやすいトイレ環境の整備、バリアフリー化にもますます期待が高まります。

ＰＴＡが子どもたちのために何ができるのか…を原点に保護者の方々が一丸となって活動している「東俣野特別支援学校」。今後の活動にも注目していきたいと思います。

東俣野特別支援学校ホームページ
http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/ss/higashimatano/

「プログラミング教育」って、なに？

小学校で2020年から必修化になるプログラミング教育。知らなかった…という方も多いのではないでしょうか。そこで、プログラミング教育について、横浜市教育委員会指導企画課の吉田指導主事にお話を伺いました。

Ｑ：プログラミング教育ってどんなものですか？　教科になるのですか？
Ａ：プログラミングという教科ができるわけではなく、算数や理科などの一部として、「プログラミング的思考」を学びます。例えば算数でいうと、プログラミングを使って図形を描く、などのやり方が考えられます。そのため、パソコンやタブレットなどのコンピュータ機器を使用します。
ただ、詳細はこれからです。どの学年でどう学ぶと効果的なのかを検証中です。

Ｑ：「プログラミング的思考」とは何ですか？
Ａ：白分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組み合わせが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号をどのように組み合わせたらいいのか、記号の組み合わせをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力です。
具体的な例としては、スイカ割りを考えてください。
スイカを割る係は目隠しをし、周りが色々な指令を出します。まっすぐ、右、左、止まって、叩いて…など言葉や記号の組み合わせで指示を出し、目的を達成します。
どうしたらうまくスイカが割れるのか、そこを考えるのがプログラミングすることと似ています。

Ｑ：なぜプログラミング教育が必要なのでしょうか？
Ａ：プログラミング教育は突然出てきたものではなく、中学校では技術、高校では情報という教科の中に、すでに取り入れられています。
今はＡＩなどテクノロジーの発展が目覚ましく、情報との付き合い方、使われるのではなく使いこなすような能力を養うことが求められています。学習指導要領の中でも、このような情報活用能力は問題解決能力と並んで大変重要になりました。
情報活用能力の中にはプログラミングだけではなく、ＩＣＴ機器（パソコン、タブレット等）を活用することなども含まれます。中学、高校で今後さらにプログラミングに関する内容が増えることに備え、小学校ではまずＩＣＴ機器に触れながらプログラミングを楽しむ体験をします。そしてその体験から実生活の中にもプログラミングされたものがたくさんあることに気付いていくことが大切です。

Ｑ：プログラミングをすると、子どもにはどんな良いことがあるのでしょうか？
Ａ：「プログラミング的思考」の大切さに気付くことにより、実生活で問題が起きた時でも、順序立てて考えたり戻って考え直したりする力をつけることができます。
また、コンピュータを使うことで、既存の授業にさらに興味を持つというメリットもあります。算数や理科などの授業に組み込むことにより、いままで苦手だった教科に興味がわくということが考えられるのです。
小学校から始めることは早すぎるのではないかと思われがちですが、子どもたちの方がコンピュータについて詳しく知っていたり、使いこなしていたりします。むしろ、早くからきちんとした教育を受けることで、より適切な使い方を知ることができ、将来の可能性が広がります。

お話を伺って、子どもたちにとって良いことがたくさんあると思いました。
また、家庭にパソコンやタブレットが無くても、学校で教えてもらえるのは保護者にとってもありがたいです。このような環境が整えられていくことを、長い目で見守っていきたいです。

［小学校段階におけるプログラミング教育の実施例］

総合的な学習の時間	自分の暮らしとプログラミングとの関係を考え、そのよさに気付く学び	音楽	創作用のICTツールを活用しながら、音の長さや高さの組み合わせなどを試行錯誤し、音楽をつくる学び
理科	電気製品にはプログラムが活用され条件に応じて動作していることに気付く学び	図画工作	表現しているものを、プログラミングを通じて動かすことにより、新たな発想や構想を生み出す学び
算数	図の作成において、プログラミング的思考と数学的な思考の関係やよさに気付く学び	特別活動	クラブ活動において実施

「小学校段階における論理的思考力や創造性、問題解決能力等の育成とプログラミング教育に関する有識者会議」（とりまとめ）平成28年６月16日　文部科学省より

ＴＨＥ「ハマ弁」 ～新たなる中学校昼食の試み～

1.4%。この数字は何かわかりますか？　実はハマ弁の平成29年７月の喫食率です。では、20%は？　これはハマ弁が普及の目安にしている喫食率です。

この数字はなぜ低いのか、目標値に近づけるためにどのような対策がとられ、変化がおきているのか、横浜市教育委員会健康教育課にお話を伺ってきました。

横浜市独自のハマ弁ですが、始まったのは平成28年です。

横浜市では、昭和30年代～60年初頭の急激な人口増加に伴い、学校の施設整備が急ピッチで行われました。同時に、生徒の受け入れを優先させたため、中学校では給食室の整備ができず、お弁当持参となり今にいたっています。

その中で、家庭環境の変化に伴い、横浜市らしい中学校昼食のあり方を学校関係者、市民のアンケートを基に検討した結果、家庭弁当を基本とする中で、個々の状況に合わせ栄養バランスのとれた温もりのある配達弁当の選択を可能にするためハマ弁（事前予約）が誕生しました。さらに、家庭弁当忘れや事前注文忘れに対応できる業者弁当（当日注文）も共存することにより更なる充実を図っています。

ハマ弁の運営は、栄養価やメニュー・食品衛生・調理・配送の全てを専門とする業者が手がけています。また、安全が守られた上で民間業者ならではのネットワークを生かし、アンケートなどから利用する側の意見をできるだけ取り入れ、変化・改善の努力が続けられています。実際にご飯の大盛りの量を、食べ盛りの生徒さんの声に応えて増量したり（金額は変わりません！）、注文にスマホアプリを導入してカレンダー上での予約や内容確認もできるようになったり、企業と協力して食に対する知識の提供やハマ弁利用のきっかけ作りなど、意見を反映し改善がされています。また、生徒にハマ弁がどのようなものかを知ってもらうため、保護者からの希望により小学校でも６年生児童がハマ弁を試食できる機会をつくるなど、普及にむけ積極的な動きもあるようです。

意見が反映されること、ハマ弁に携わる全ての方々が、子どものこれからのためによりよい取り組みにしようと、対応を考え続けていることに感心しました。

そこで、みなさんにもハマ弁を知っていただくため、試食会におじゃましましたのでご紹介します。

温かい状態で提供できる保温パックの入った汁物用のコンテナ

☆ハマ弁試食会☆

10月27日（金）、横浜市立瀬谷中学校において、２学年の希望者52名の生徒を対象に「ハマ弁デー」が実施されました。「ハマ弁デー」とは、ハマ弁を一人でも多くの生徒に知ってもらうことを目的とした試食会です。

この日の献立はおかずがＡハンバーグまたはＢエビカツ。ご飯と汁物は湯気が上がるほど熱い保温パックが入ったコンテナに入れられ、温かい状態で提供されるよう配慮されています。希望に応じ牛乳も注文することができます（通常、汁物・牛乳は家庭弁当持参者、業者弁当注文者も単品で注文することができます）。

いつもは個々で受け渡し場所である昇降口まで取りに行きますが、この日は業者の方により各教室の入口に配置されたコンテナから生徒がお弁当を配り、みんなの準備が整ったところで一斉に昼食が始まりました。

試食した生徒からは「ハンバーグが美味しかった」「ご飯、汁物が温かくてうれしい」という感想のほか、「副菜の味を濃くしてほしい」、「普段も教室まで届けてくれると時間短縮になるので助かる」などの要望も聞かれました。女子生徒の一人からは、「栄養バランスがとれていてよい」といった声が聞かれ、食の自己管理に対する意識の高さに感心させられました。

また、毎日ハマ弁を利用している先生からは、「生徒と同じものを食べることでコミュニケーションを図るよいきっかけになっている」というお話を伺うことができました。

共働き世帯の増加、家庭環境、社会情勢が多様化する中、個々の状況に応じ栄養バランスのとれた温かいお弁当を注文できるのは成長期の子どもを持つ保護者にとって大変安心なことです。こうしたハマ弁普及への取り組みは、中学生や来年度以降中学校に進学する児童・保護者を対象に試みが広まっています。

現在も発展途上のハマ弁ですが、「ハマ弁デー」を通して、学校・生徒・保護者の声が反映され、より利便性のよいものとなり、家庭弁当、業者弁当と合わせ横浜市の中学校昼食が更に充実し、未来を担う子どもたちの健やかな育成につながっていくことを期待したいと思います。
※平成30年４月よりハマ弁の価格が値下げになります。

楽しみに取りに来る生徒。「あったかい！」と嬉しそう

ハマ弁に関する問い合わせ先
ハマ弁サポートセンター　☎0570-03-4580（代表）

健やかな子どもを育てる・力をつけて一歩先の未来へ

◀子どもの栄養を考え、親も便利なハマ弁

◀論理的思考を身につけるためのプログラミング教育

◀子どもの国際性を育む教育現場のグローバル化

子どもたちが今よりも一歩成長できるためのヒントが実は身の周りにいくつも潜んでいます。
今特集では３つに絞って詳しくご紹介いたします。

イラスト作成：横浜市立瀬谷中学校

コミュニケーションから始める異文化交流 南吉田小学校　育友会（PTA）

☆学校紹介☆

全校児童の半数以上（平成29年10月現在56～57％）が外国籍または外国にルーツをもつ児童が在籍している南区の南吉田小学校。中国、韓国、フィリピン、ブラジルなど多国籍で国際都市ヨコハマを象徴した小学校です。

異文化を有しながら南吉田小学校【育友会（ＰＴＡ組織）】の皆さんはどのような工夫をしながら活動をしているのか、今回お話を伺いました。

今年度の運動会では７か国聖火リレーをそれぞれの民族衣装を着て行い、各国の国旗も掲揚しました

最近では、ミサイル関連のＪアラートについてのお便りも各国の言葉で作成しました

☆お互いを認めよう・学校との連携☆

給食がない国、登校班のない国、体育・図工のない国、そしてＰＴＡ組織や活動のない国。日本とは違う様々な国の文化を知り、先入観や偏見を持って接するのではなく、お互いを認め合い理解し合う事を学校と保護者が認識し、連携していく事がとても大切です。

学校や育友会活動のお便りをはじめ、配布物の全てに読み仮名（ルビ）を振ったり、翻訳サポーターを保護者から募り、各母語でのお便りを作成しています。その際に気をつけているのは『簡潔に』『わかりやすく』『ダラダラ書かない』など、日本語に慣れていない保護者に子どもが読み聞かせもできるよう工夫しています。また保護者が集まる授業参観や引き取り訓練などでは、学校と育友会で連携し、わかりやすい言葉を意識しながら仕組みや活動について説明する機会を設けています。

☆異文化交流☆

児童に対しては、日本語を母語としていない児童が母語を忘れないための『母語教室』や、任意で入る事ができる『特別クラブ』として、英語・邦楽（琴）・チャンゴ（朝鮮太鼓）・百人一首・音楽（合唱）があります。また、多国籍児童が多数在籍している南吉田小学校ならではの『MYワールドランチ』では年に４、５回各国のお料理が給食として出されます。

保護者に対しては、次のような会を開催しました。お弁当文化のない国の保護者が理解できるように、栄養士から説明を受けながら持ち寄ったおかずを実際にお弁当箱に詰めて一緒にお弁当を作る『お弁当の会』。いろいろな国の習慣や文化にふれながら世界のお茶を楽しむ（ロシアンティー・タピオカミルクティー・コーン茶などといろいろな国のお菓子も一緒に食べる）『お茶の会』。外国籍児童の保護者がそれぞれの特技を生かし、母国の料理を教える『お料理教室』では餃子の皮から作るMYギョウザパーティー。

学校と育友会が協力し、いろいろな活動を通してコミュニケーションを図り様々な国の文化を理解し合える環境を作っています。

藤本哲夫校長先生「保護者の不安を払拭し、学校と保護者、さらに保護者同士の関係を結び学校に来てもらう事が大切」

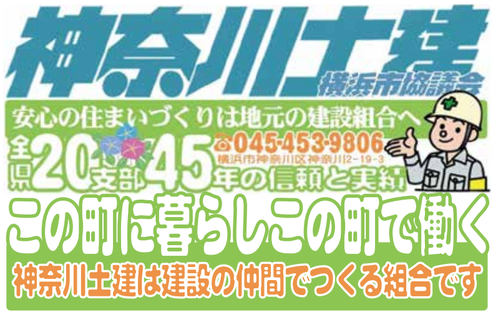
☆取材を終えて☆

ＰＴＡの役割や活動を理解する事は、私たち日本で生まれ育った保護者にとっても簡単なことではありません。外国籍や外国にルーツを持つ保護者であればなおのこと理解する事は難しいと思いますが、南吉田小学校【育友会】の皆さんは、学校としっかり連携を取りながら前向きに活動されていました。

「最近は日本への永住志向も高まっており、他人事ではなく皆さんの学校でも様々な国籍やルーツを持つご家庭が増えていくと思います。その時に理解し合える意識を持っておくことが大切です。」とのお言葉がとても印象に残りました。

学年・国籍に関係なく仲良く共に成長している子どもたちのように、私たち保護者も固定観念に捉われず楽しんで活動・交流していければと感じました。

多国籍の学校だからこその可能性は無限に広がり、様々な体験を通じていろいろな事を吸収することで、未来を担う子どもたちがさらなる力を発揮して大きく羽ばたいていく将来が楽しみです。



第９回市Ｐ連 三行詩コンクール

平成29年12月16日に横浜市技能文化会館において、第９回市Ｐ連三行詩コンクール表彰式が行われました。今年度の三行詩コンクールには昨年より２２０点以上多い１０７５点もの作品が集まりました。

授賞式後の懇談会では、作者やご家族によって各作品の背景が語られました。何気ない日常の中にある幸せを言葉にした作品のエピソードが披露されると、会場には温かな共感の輪が広がりました。

市Ｐ連会長より「普段はなかなか口にできないが、三行詩によって自分の気持ちを伝えることができていて素晴らしい」という話がありました。まさに家族や友達への愛と感謝の気持ちを深く感じる作品ばかりでした。

テーマ
- 命の大切さ
- 家族のきずな
- ともだち

三行詩とは
日ごろの思いや発見などを三行程度の短い文で表現したもの

教育長賞（一般の部）

不登校だった息子　親子で暗闇にいた
今は光の中で輝く君
不登校は君の勇気だったと、今わかる
小林郁美（戸塚・川上小）

会長賞（一般の部）

障害のある妹に冷たかった兄。
いつの間にか成長し、
妹との将来を考えるようになった優しい兄。母、涙。
尾形友己子（港南・港南台ひの特別支援）

お母さん一人で行けるよ。
初めて習い事に一人で行った。
成長したなぁと思いながらそっと追ってしまった
ひとはたくりこ（戸塚・南戸塚小）

「大丈夫！」勇気がわく
「大丈夫？」優しくなれる
「ダイジョウブ」は家族をつなぐ
齋藤由美子（戸塚・品濃小）

親の技量　試しているのか
どら息子　受けて立つぞ
共に成長していこう
角田靖恵（緑・山下みどり台小）

タイムマシンに乗って、
「ナイスファイト!!」と言いに行きたい。
赤ちゃんを抱いて、泣いてた自分に。
和田希未子（港南・港南台ひの特別支援）

教育長賞（児童生徒の部）

ぼくに、弟ができた。
まだまだ小さい命。
たくさん泣いてよく育て。
福原光希（磯子・汐見台小５年）

ぼくのパンパンお弁当。
はみ出る思いうけとめて、かみしめて食べるよ。
残さずに。
川村勇太（泉・中田中１年）

会長賞（児童生徒の部）

大きな手
なでなでされると　うれしいな
いつもまほうのおかあさん
大滝一颯（磯子・洋光台第一小１年）

ぼくがわらうとかぞくもわらう
ぼくがなくとかぞくもかなしむ
かぞくがいるってしあわせだね
村松煌泰（磯子・洋光台第一小２年）

ママが言う
私が大きくなってうれしいって、
でもさびしいって、どっちなの？
佐藤心映（港南・丸山台小４年）

おっぱいが　ひとつになっても　ママはママだよ
かわいいままだよ
ずっと大好き
メソサウルス（磯子・汐見台小５年）

お母さんのお見舞いに行く
ずっと手をつないでいたけれど
本当はお母さんの上にのっかりたかったな
小林ひかり（戸塚・川上小５年）

私の夏休みのお弁当
お父さんが作るありがたさ。
今度は、私が作ってあげたい。
長田　優（磯子・汐見台小５年）

一人でいると心の声
二人でいると話し声
家族でいると笑い声
宮澤瑞希（保土ケ谷・瀬戸ケ谷小５年）

僕が困った事があった時、
「死にゃしないよ。」
おじいちゃんの、この言葉いつも元気で頑張れる。
津田陽向（都筑・茅ケ崎中２年）

いつも弁当を作ってくれて
いつも道着を洗ってくれて
いつもいつもありがとう
柔道女子（泉・岡津中３年）

食卓で
今日の出来事語り合い
みんなで笑う　小さな幸せ。
平野　渚（都筑・茅ケ崎中３年）

車イスであるくのはわたし。
お友だちは自分であるく。
きもちはいつも一緒だね。
廣松愛香（保土ケ谷・上菅田特別支援　高３）

第61回ＰＴＡ音楽交歓のつどい

平成29年11月15～17日

今年度も横浜市ＰＴＡ連絡協議会主催の「第61回ＰＴＡ音楽交歓のつどい」が開催され、65のグループに参加いただきました。

この催しは市内各学校のＰＴＡコーラスグループが学校・地域・世代を超えて年に一度交流できる貴重な場となっています。

あるグループでは20年以上活動を続けてきた方のお子様が今年は保護者となり、親子そろってステージに立つことができました。

３日間の開催期間中、各団体それぞれ個性がよく発揮され、選曲・衣装・小道具・振り付け等の演出で観客を引き付けます。美しい歌声がホール全体に響き渡り、高揚感あふれる感動を覚えました。

今回舞台の上で赤ちゃんをだっこしながら歌うお母さんの姿が多く見られ、みんなでお子さんを見守っていこうとする温かさが感じられました。

また、初の神奈川区民文化センター（かなっくホール）での公演でしたが、皆さんホールの響きのよさに驚かれているようでした。

このようなすばらしい催しがこれからも音楽を通して人と人をつなぐ会であり続けることを願います。

おそろいの
手作り衣装で華やかに

「きよし！」コールで会場が一体になりました

参加者の声

今回のホールは客席とも近くアットホームで温かい感じがよかったです。低音がまろやかに聞こえ楽しく歌えました。

普段から歌い慣れている曲を独自にアレンジしました。会場の皆さんと一緒に盛り上がることができてとても楽しかったです。

事業研修委員の皆さま。
運営お疲れさまでした！

第65回日本ＰＴＡ全国研究大会（仙台）

平成29年８月25～26日、東日本大震災以来初の東北開催となった仙台大会に横浜市Ｐ連から会員42人が参加しました。震災後の６年で歩んだ復興の道のりと、全国からの支援への感謝の気持ちが伝わる貴重な大会でした。

１日目は８分科会に分かれて活動。２日目の全体会では、ウエイトリフティングメダリストの三宅宏実さんと、父で監督の義行さんの対談を聴き、親子関係の絆を強めるためにコミュニケーションの大切さを改めて感じました。

第73回指定都市情報交換会（大阪）

平成29年９月14日、大阪市で第73回指定都市情報交換会が開催され、横浜市Ｐ連からは役員代表と事務局の数名が参加しました。

１日目の分科会では、「組織・運営」「研修活動」「地域連携」「広報活動」に分かれて情報交換。２日目の全体会では分科会報告後、グローバルキャリア代表取締役・的場亮さんによる講演があり、「自分の人生に責任を持つことの大切さ」について考えさせられました。次回は北九州市で開催されます。

第49回関東ブロック研究会（群馬）

平成29年10月21～22日、第49回関ブロ群馬大会が開催され、横浜市Ｐ連からは61名が参加しました。

１日目は７つの分科会に分かれ、ＰＴＡ活動の推進や課題について協議しました。

第１分科会（組織運営）では、横浜市立港南台ひの特別支援学校ＰＴＡ橋本さんと、横浜市立港南台第二小学校ＰＴＡ杉野さんが、「親たちの背中～『苦手なことから逃げない姿勢』を我が子に示すＰＴＡ活動～」と題し研究発表を行いました。港南台ひの特別支援学校が移転開学してから14年。教職員、保護者、地域の皆さんなど様々な関係者の努力により地域の中で愛される学校に成長したことや、港南台ひの特別支援学校と港南台第二小学校との交流、中学校区連絡会での活動の様子などを紹介してくださいました。

分科会終了後の報告会では参加者の皆さんから熱のこもった報告をいただき、また区を越えた親睦を深めることができました。

２日目は全体会が開催されました。アトラクションでは、東京農業大学第二高等学校吹奏楽部によるマーチングバンドが披露され、素晴らしい演技に会場が酔いしれました。続いて俳優・テレビレポーターでおなじみの阿部祐二さんによる「取材経験から感じた『いじめ問題・教育問題』」について記念講演が行われました。軽妙で親しみやすい語り口での、ご自身の子育て経験や、報道取材で接したいじめ問題に関するお話をお聞きしました。

２日間を通し、多くの気づき、学びを得ることができた大会でした。

教育予算充実求め請願書提出

平成29年11月24日、横浜市における教育予算の充実を図る請願書を、横浜市会へ提出しました。

横浜市ＰＴＡ連絡協議会では、教育環境の改善や充実を推進する活動の中で、子どもたちが安全で安心な環境の下、充実した学校生活を送れるよう、教職員の増強や施設の実現に向け、横浜市における教育予算の充実を図ることを請願しています。

（平成29年12月19日・市会本会議において採択されました。）

請願書を渡す市Ｐ連役員